

# あきる野が目指す特色ある学校づくりの推進

～いいまちは いい学校をつくり

いい学校は いい人を育てる～

令和7年2月17日

あきる野市総合教育会議



生成AIで作成「未来のあきる野市」



生成AIで作成「未来のあきる野市の学校」

## あきる野市教育大綱 基本理念・基本方針

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 01 多様な子どもたちの <b>学び</b> づくり     |  |
| 02 子どもが安全に安心して育つ <b>環境</b> づくり |  |
| 03 自然・伝統・文化を誇りに思う <b>人</b> づくり |  |
| 04 地域で”ひと”を育てる <b>まち</b> づくり   |  |

01

多様な子どもたちの**学び**づくり

02

子どもが安全に安心して育つ**環境**づくり

03

自然・伝統・文化を誇りに思う**人**づくり

04

地域で”ひと”を育てる**まち**づくり

# あきる野っ子の育成

01

## 多様な子どもたちの学びづくり

### 多様化する子どもの実態

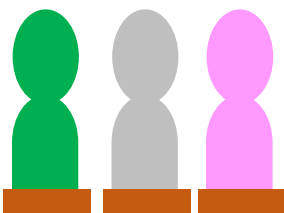
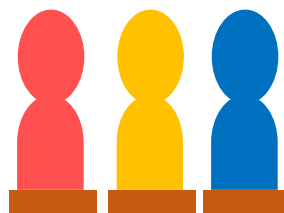
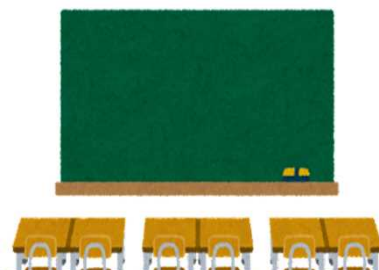
**発達障害**

の可能性のある子ども

**特異な才能**

のある子ども

**不登校・不登校  
傾向**の子ども



**家で日本語を  
話す頻度**の違い

**家庭の  
文化資本**の違い

子どもの**特性**や  
**興味・関心**は様々

## 01 多様な子どもたちの学びづくり

そろえる教育から伸ばす教育へ



一人一人が個性を伸ばせるよう、  
自らに最適な学び方を自己調整する  
力を育成

# 01 多様な子どもたちの学びづくり



## 学びの評価

誰と、何を



## 目標の設定

一定の目標⇔異なる方法  
異なる目標⇔興味・関心

自立した学習者へ  
学び方の提供

自己選択・決定する機会  
自己調整する力

## 情報の収集

何から集めるか



## 学習の形態

誰と

## 場所・道具

どこで、何を使って



# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

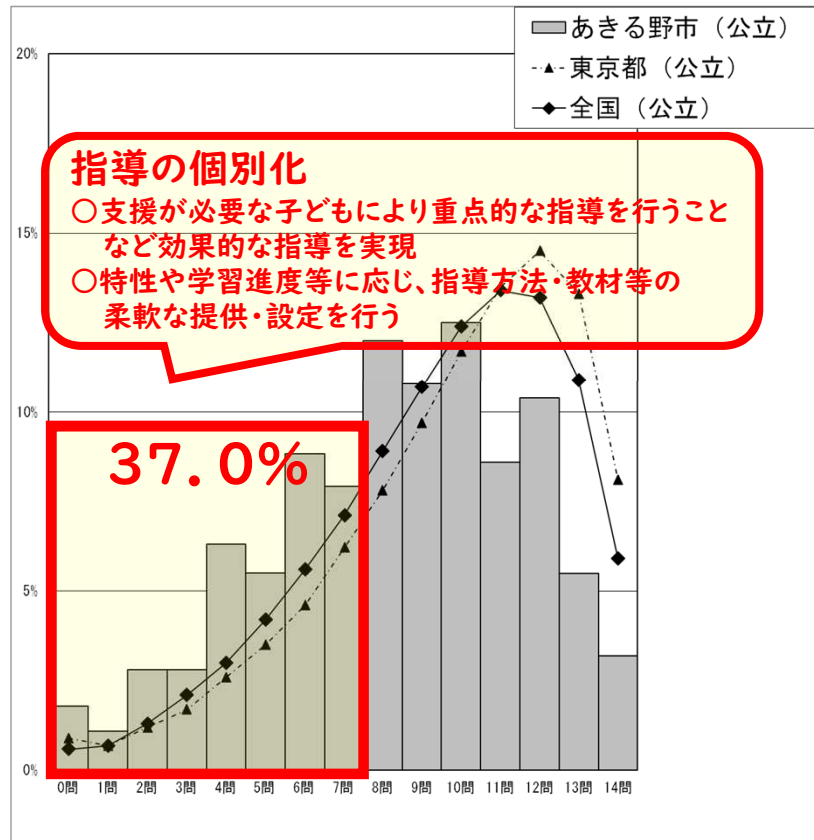
## 小学校

|        | 平均正答率(国語)     | 平均正答率(算数)     |
|--------|---------------|---------------|
| あきる野市  | 59.0%         | 56.0%         |
| 全国(公立) | 67.7%<br>-8.7 | 63.4%<br>-7.4 |

## 中学校

|        | 平均正答率(国語)     | 平均正答率(数学)     |
|--------|---------------|---------------|
| あきる野市  | 55.0%         | 50.0%         |
| 全国(公立) | 58.1%<br>-3.1 | 52.5%<br>-2.5 |

# 小学校「国語」に関する調査結果（正答数分布）



## 〈平均正答数〉

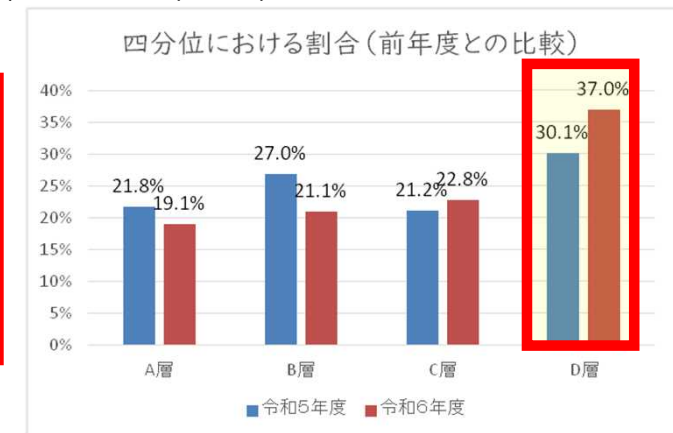
| 国語        | 平均正答数(問) | 平均正答率(%)  |
|-----------|----------|-----------|
| あきる野市(市立) | 8.3 / 14 | 59.0      |
| 東京都(公立)   | 9.8 / 14 | 70.0 -11  |
| 全国(公立)    | 9.5 / 14 | 67.7 -8.7 |

| 全国平均正答率との差 |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|
| 教科         | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 国語         | -6.7 | -7.6 | -4.2 | -8.7 |

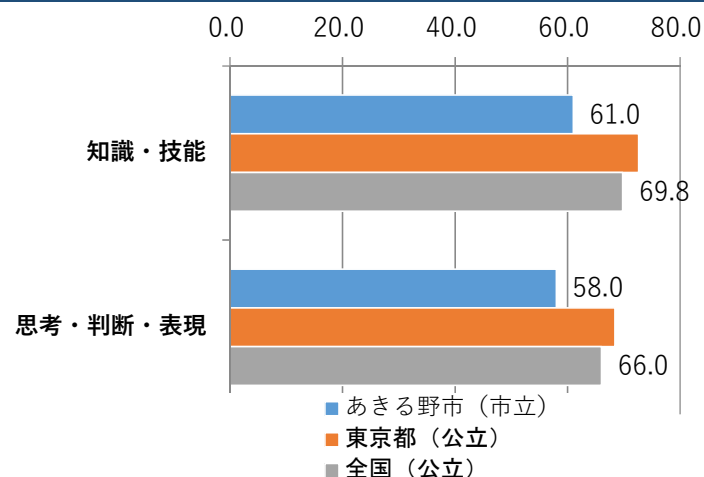
令和5年度と比較して  
正答率の差が4.5%広がる  
D層の割合が6.9%増加

## 〈四分位における割合％〉 ※全国（公立）の四分位による

| 国語        | 上位 ← 下位      |              |            |            |
|-----------|--------------|--------------|------------|------------|
|           | A層<br>12~14問 | B層<br>10~11問 | C層<br>8~9問 | D層<br>0~7問 |
| あきる野市(市立) | 19.1         | 21.1         | 22.8       | 37.0       |
| 東京都(公立)   | 35.9         | 25.2         | 17.5       | 21.4       |
| 全国(公立)    | 30.0         | 25.8         | 19.6       | 24.6       |



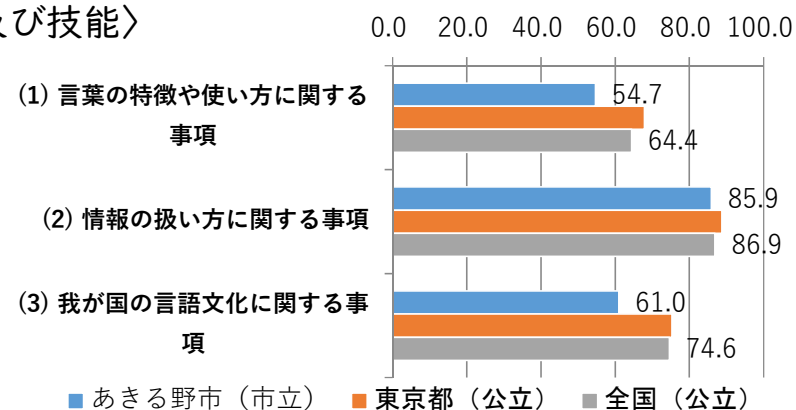
## 小学校「国語」に関する調査結果（領域別の結果）



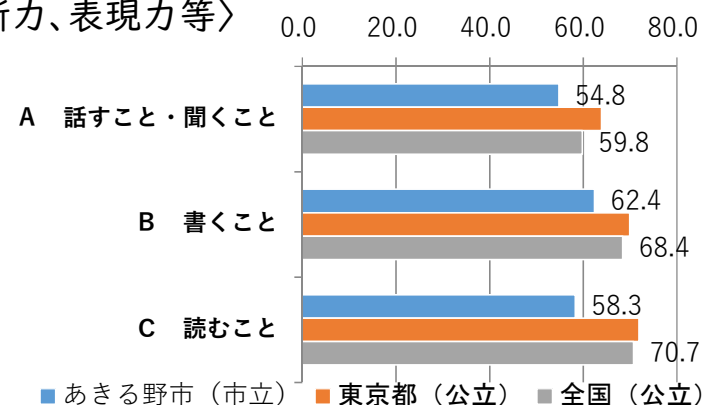
### 〈前年度との比較〉

| 全国（公立）平均との差         | 令和5年度 | 令和6年度 |
|---------------------|-------|-------|
| 知識・技能               | -2.4  | -8.8  |
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | -3.2  | -9.7  |
| (2) 情報の扱い方に関する事項    | -0.6  | -1.0  |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項  | なし    | -13.6 |
| 思考・判断・表現            | -5.1  | -8.0  |
| A 話すこと・聞くこと         | -7.1  | -5.0  |
| B 書くこと              | -3    | -6.0  |
| C 読むこと              | -3.7  | -12.4 |

### 〈知識及び技能〉



### 〈思考力、判断力、表現力等〉



# 小学校「国語」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和6年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策所)

## 学習指導要領の領域「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」

〈大問2三ア〉学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

(正答率33.3%)※無回答20.6%

### 指導改善のポイント

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。

## 学習指導要領の領域「C 読むこと」

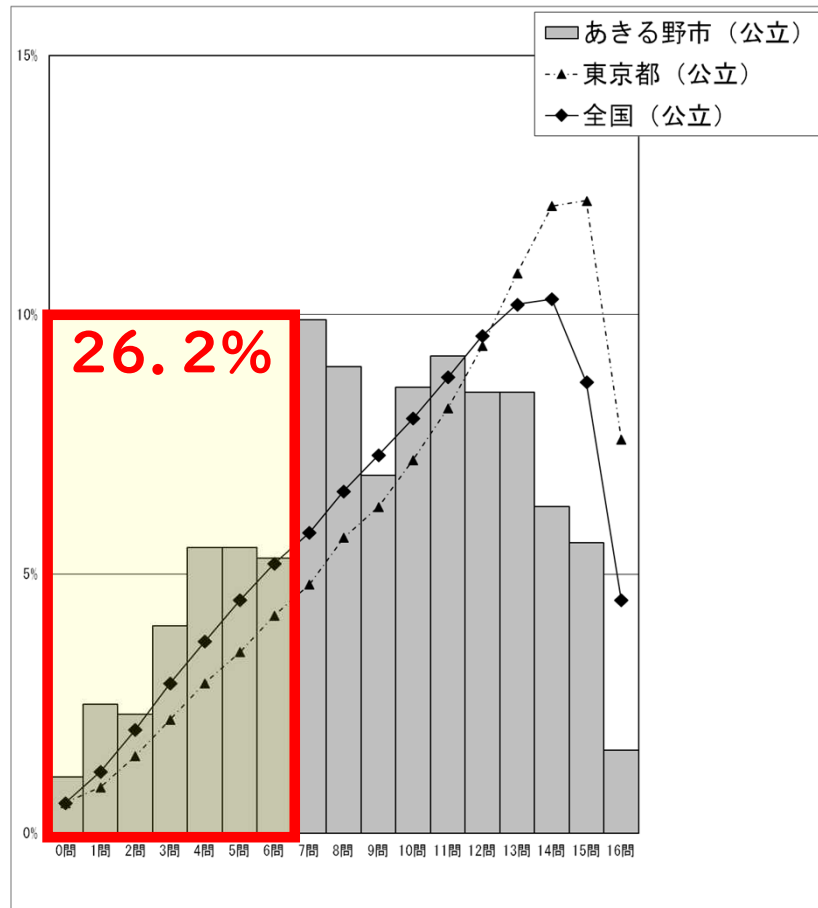
〈大問3三〉人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる。

(正答率55.9%)※無回答28.7%

### 指導改善のポイント

心に残ったところは書けるが、その理由を書くことが難しい児童に対しては、「なぜか」ということや「～からです」など、思考そのものに関わる語句を例示することが考えられる。また、物語の全体像をつかむことができても、根拠となる叙述を明確にすることが難しい児童に対しては、「～のところから」など、根拠を表す語句を例示することが考えられる。このように、[知識および技能]の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」と関連させて、自分の考えを適切に表現することができるように指導すると効果的である。

# 小学校「算数」に関する調査結果（正答数分布）



## 〈平均正答数〉

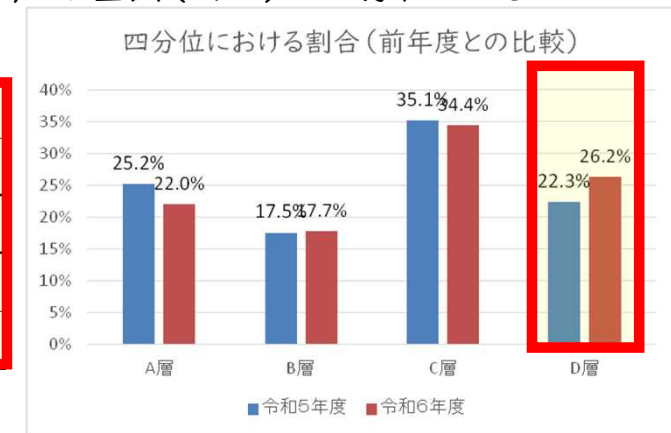
| 算数        | 平均正答数(問)  | 平均正答率(%)   |
|-----------|-----------|------------|
| あきる野市(市立) | 9.0 / 16  | 56.0       |
| 東京都(公立)   | 10.9 / 16 | 68.0 -12.0 |
| 全国(公立)    | 10.1 / 16 | 63.4 -7.4  |

| 全国平均正答率との差 |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|
| 教科         | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 算数         | -4.2 | -5.2 | -3.5 | -7.4 |

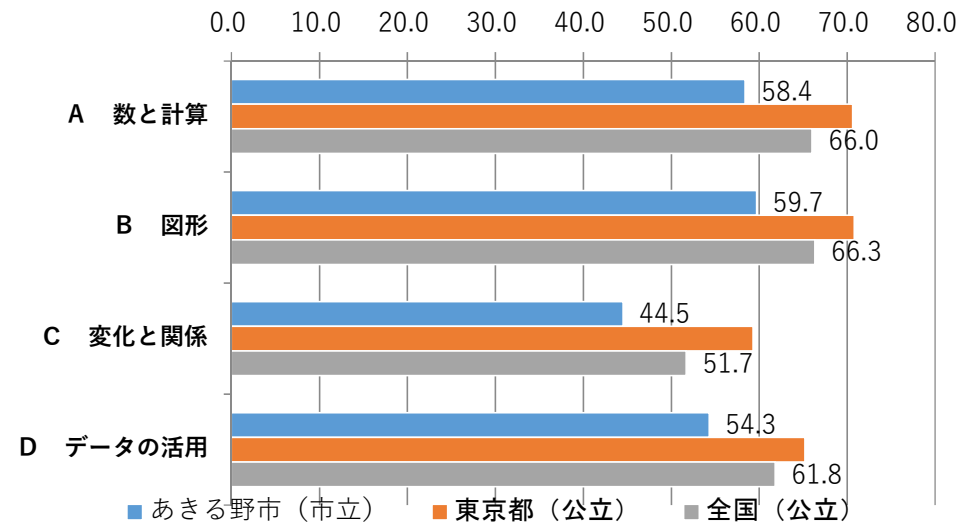
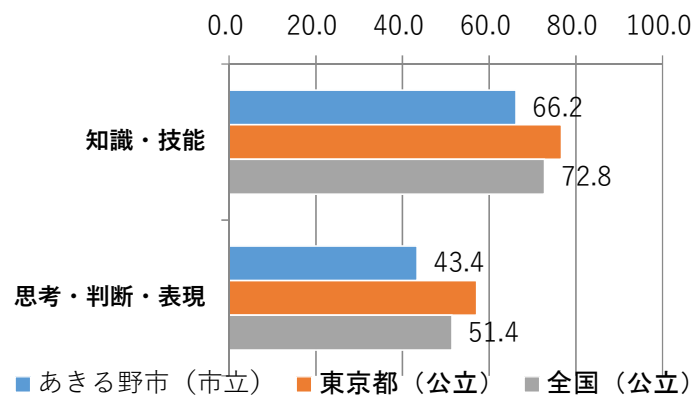
令和5年度と比較して  
正答率の差が3.9%広がる  
D層の割合が3.9%増加

## 〈四分位における割合％〉 ※全国（公立）の四分位による

| 算数        | A層     | B層     | C層    | D層   |
|-----------|--------|--------|-------|------|
|           | 13～16問 | 11～12問 | 7～10問 | 0～6問 |
| あきる野市(市立) | 22.0   | 17.7   | 34.4  | 26.2 |
| 東京都(公立)   | 42.7   | 17.6   | 24.0  | 15.8 |
| 全国(公立)    | 33.7   | 18.4   | 27.7  | 20.1 |



## 小学校「算数」に関する調査結果（領域別の結果）



### 〈前年度との関係〉

| 全国（公立）平均との差 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------------|-------|-------|
| 知識・技能       | -2.3  | -6.6  |
| 思考・判断・表現    | -4.3  | -8.0  |

| 全国（公立）平均との差 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------------|-------|-------|
| A 数と計算      | -3.5  | -7.6  |
| B 図形        | -2.3  | -6.6  |
| C 変化と関係     | -0.6  | -7.2  |
| D データの活用    | -6.6  | -7.5  |

# 小学校「算数」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和6年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策所)

## 学習指導要領の領域「A 数と計算」

〈大問4(1)〉除数が少数である場合の除法の計算ができるかどうかをみる。

(正答率59.5%)※全国との差-10.6ポイント

### 指導改善のポイント

除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、計算をすることができるようにすることが重要である。また、除法では除数が1より大きい場合は商が被除数より小さくなり、除数が1より小さい場合は商が被除数より大きくなることと捉えることができるようにすることも大切である。

## 学習指導要領の領域「D データの活用」

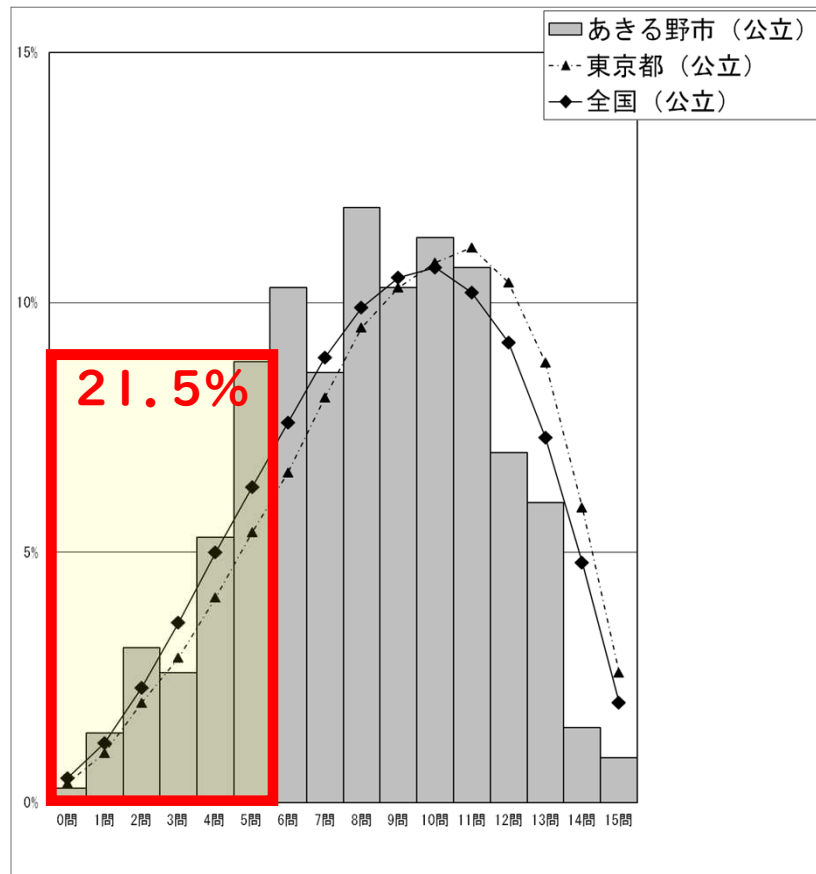
〈大問5(3)〉折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

(正答率36.6%)※無回答22.5%

### 指導改善のポイント

日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにすることが大切である。

## 中学校「国語」に関する調査結果（正答数分布）



### 〈平均正答数〉

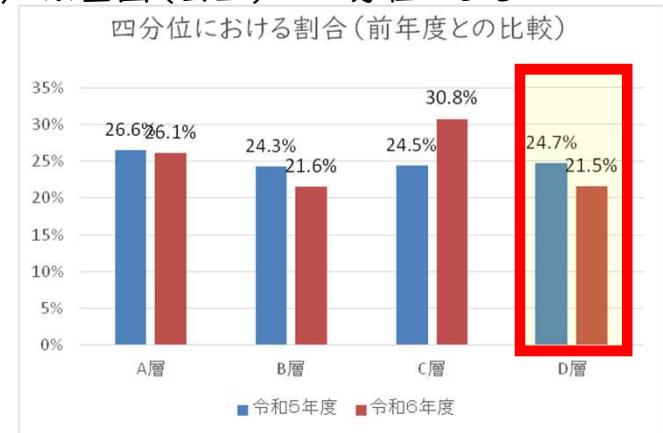
| 国語        | 平均正答数(問) | 平均正答率(%)  |
|-----------|----------|-----------|
| あきる野市(市立) | 8.2 / 15 | 55.0      |
| 東京都(公立)   | 9.1 / 15 | 61.0 -6.0 |
| 全国(公立)    | 8.7 / 15 | 58.1 -3.1 |

| 全国平均正答率との差 |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|
| 教科         | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 国語         | -1.6 | -2   | -3.8 | -3.1 |

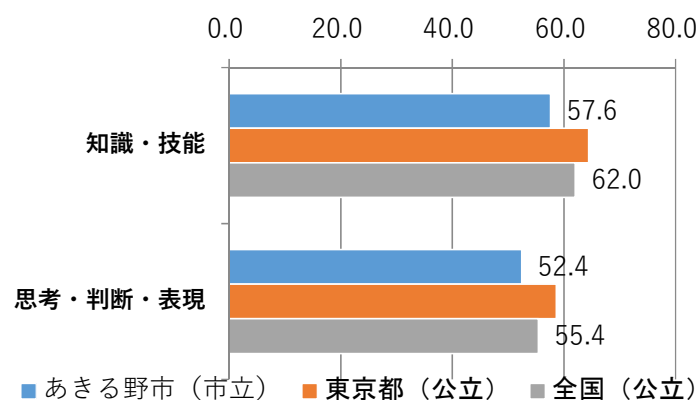
令和5年度と比較して  
正答率の差が0.7%縮まる  
D層の割合が3.2%減少

### 〈四分位における割合％〉 ※全国（公立）の四分位による

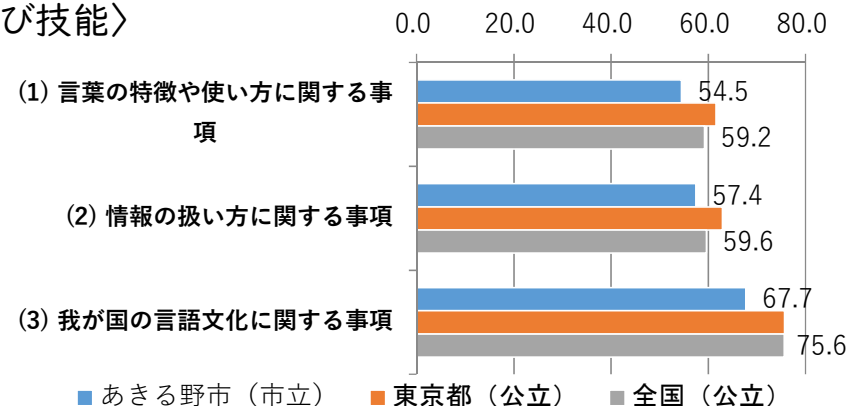
| 国語        | 上位 ← 下位      |             |            |            |
|-----------|--------------|-------------|------------|------------|
|           | A層<br>11～15問 | B層<br>9～10問 | C層<br>6～8問 | D層<br>0～5問 |
| あきる野市(市立) | 26.1         | 21.6        | 30.8       | 21.5       |
| 東京都(公立)   | 38.8         | 21.1        | 24.2       | 15.8       |
| 全国(公立)    | 33.5         | 21.2        | 26.4       | 18.9       |



## 中学校「国語」に関する調査領域別結果 平均正答率（％）



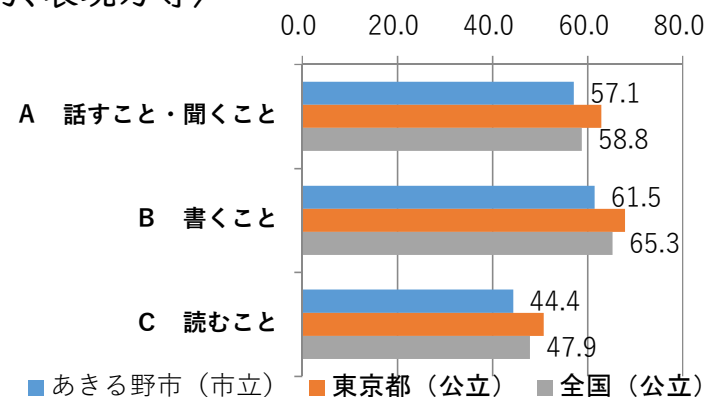
### 〈知識及び技能〉



### 〈前年度との比較〉

| 全国（公立）平均との差         | 令和5年度 | 令和6年度 |
|---------------------|-------|-------|
| 知識・技能               | -5.4  | -4.4  |
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | -5.1  | -4.7  |
| (2) 情報の扱い方に関する事項    | -3.6  | -2.2  |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項  | -6.8  | -7.9  |
| 思考・判断・表現            | -3.0  | -3.0  |
| A 話すこと・聞くこと         | -1.7  | -1.7  |
| B 書くこと              | -3.8  | -3.8  |
| C 読むこと              | -3.6  | -3.5  |

### 〈思考力、判断力、表現力等〉



# 中学校「国語」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和6年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策所)

## 学習指導要領の領域「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」

〈大問3二〉文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる。

(正答率46.7%)※全国との差-7.1ポイント

### 指導改善のポイント

読み手の立場に立って自分が書いた文章を推敲する機会などを捉えて、文の成分の順序や照応に注目して文章を読み直し、分かりやすい文章に整えていくなどの学習活動が考えられる。その際、これまでに学習した、主語と述語との関係、修飾語と被修飾語との関係などの知識を活用することができるよう指導することが大切である。

## 学習指導要領の領域「B 書くこと」

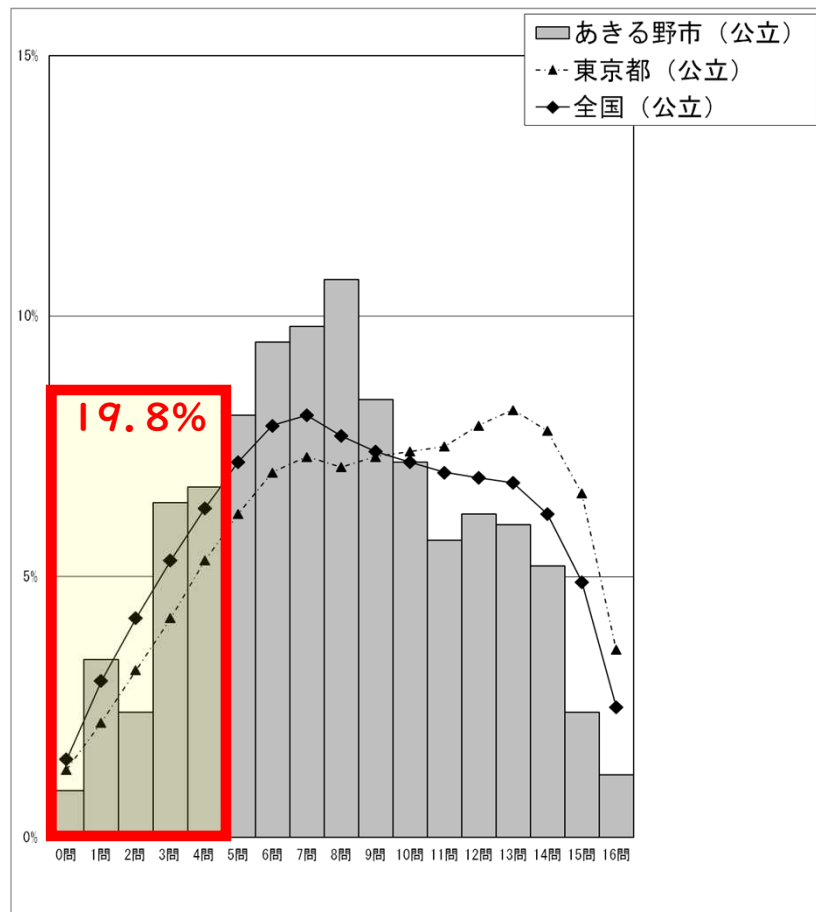
〈大問3四〉表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。

(正答率41.9%)※無回答16.8%

### 指導改善のポイント

自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているかを確認することができるよう指導することが大切である。

# 中学校「数学」に関する調査結果（正答数分布）



## 〈平均正答数〉

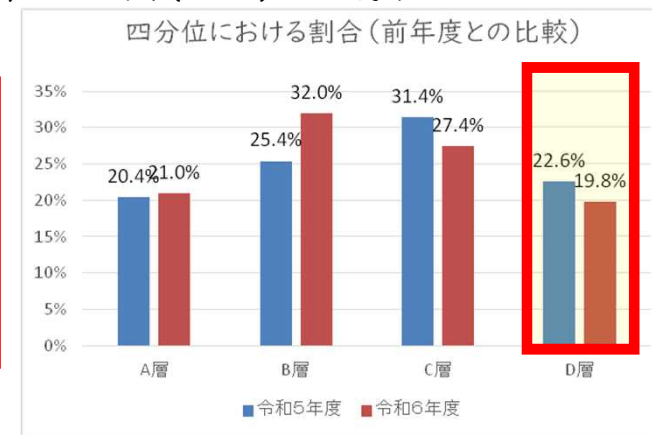
| 数学        | 平均正答数(問) | 平均正答率(%)  |
|-----------|----------|-----------|
| あきる野市(市立) | 8.0 / 15 | 50.0      |
| 東京都(公立)   | 9.1 / 15 | 57.0 -7.0 |
| 全国(公立)    | 8.4 / 15 | 52.5 -2.5 |

| 全国平均正答率との差 |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|
| 教科         | R3年度 | R4年度 | R5年度 | R6年度 |
| 数学         | -1.2 | -5.4 | -4   | -2.5 |

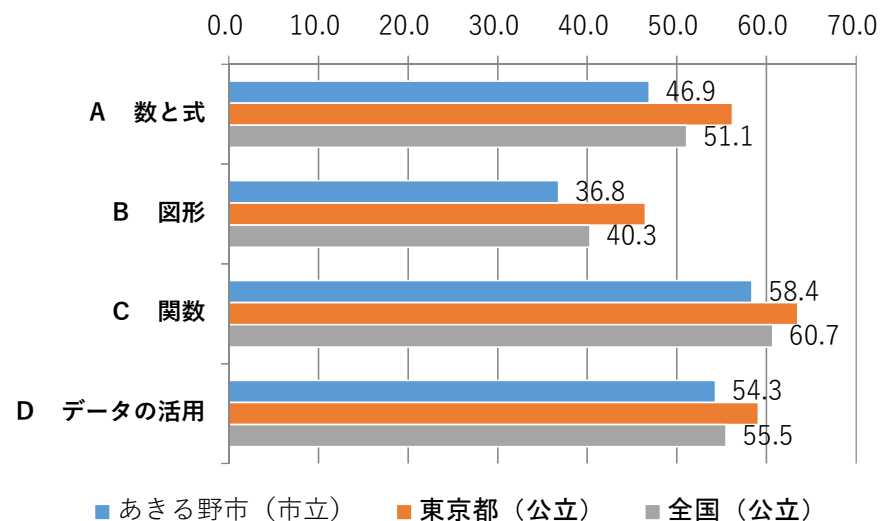
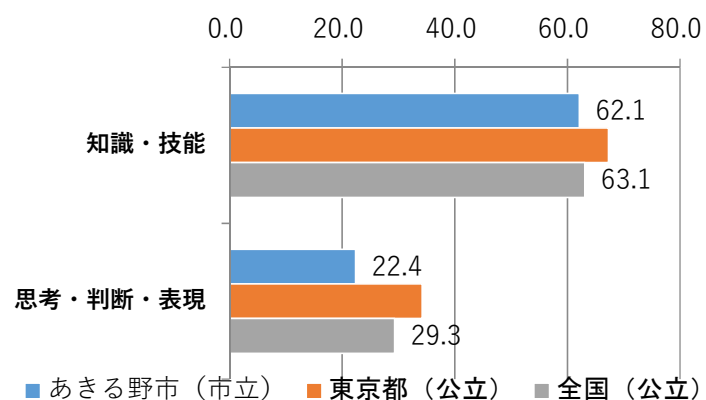
令和5年度と比較して  
正答率の差が1.5%縮まる  
D層の割合が2.8%減少

## 〈四分位における割合％〉 ※全国（公立）の四分位による

| 数学        | 上位 ← 下位      |             |            |            |
|-----------|--------------|-------------|------------|------------|
|           | A層<br>12～16問 | B層<br>8～11問 | C層<br>5～7問 | D層<br>0～4問 |
| あきる野市(市立) | 21.0         | 32.0        | 27.4       | 19.8       |
| 東京都(公立)   | 34.1         | 29.3        | 20.5       | 16.2       |
| 全国(公立)    | 27.3         | 29.3        | 23.2       | 20.3       |



## 中学校「数学」に関する領域別調査結果 平均正答率（％）



### 〈前年度との比較〉

| 全国（公立）平均との差 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------------|-------|-------|
| 知識・技能       | -4.3  | -1.0  |
| 思考・判断・表現    | -4.3  | -6.9  |

| 全国（公立）平均との差 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------------|-------|-------|
| A 数と計算      | -5.7  | -4.2  |
| B 図形        | -4.7  | -3.5  |
| C 変化と関係     | -3.4  | -2.3  |
| D データの活用    | -2.5  | -1.2  |

## 中学校「数学」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和6年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策所)

### 学習指導要領の領域「A 数と式」

〈大問6(2)〉目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。  
(正答率23.7%)※無回答23.7%

#### 指導改善のポイント

事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導することが大切である。

### 学習指導要領の領域「D データの活用」

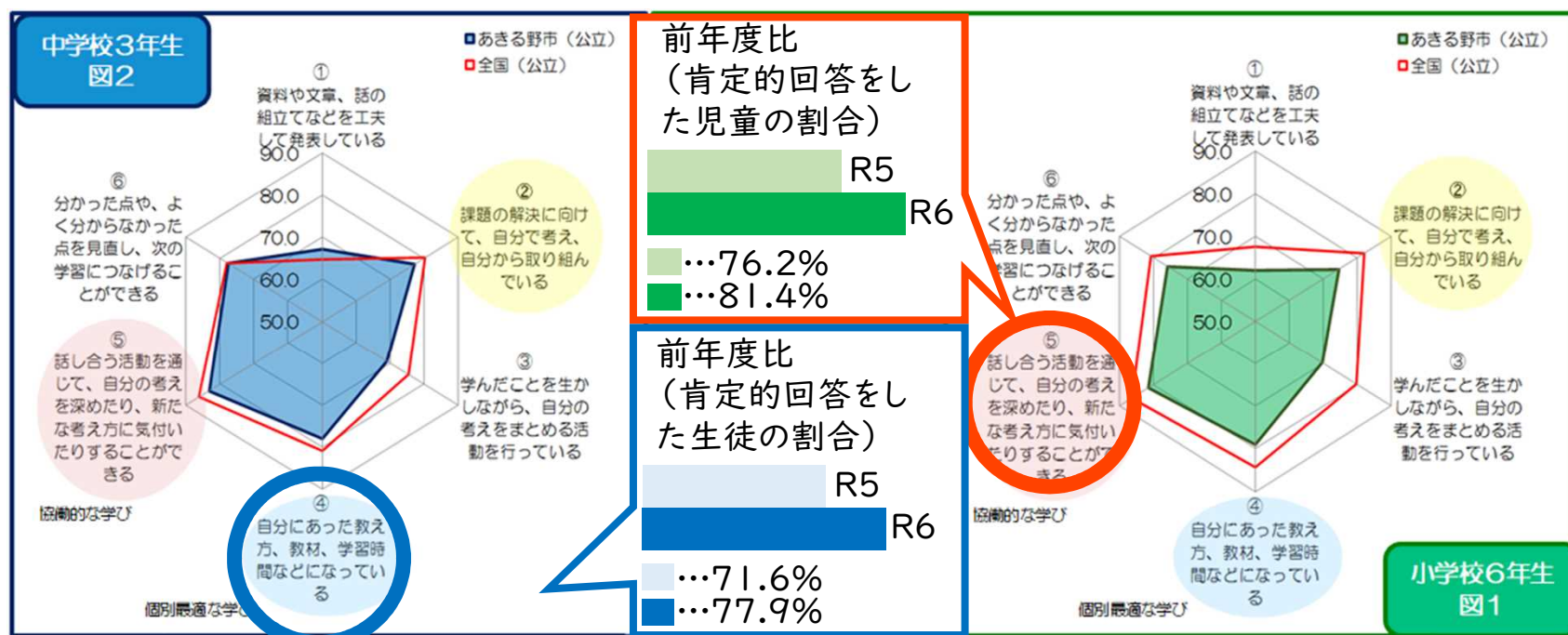
〈大問7(2)〉複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。  
(正答率19.1%)※無回答34.9%

#### 指導改善のポイント

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導することが大切である。

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の成果と課題

- 【成果】
- ・協働的な学びに関する質問 : 5.2%改善 (小学校)
  - ・個別最適な学びに関する質問 : 6.3%改善 (中学校)



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に関する取組状況について肯定的な回答をした児童・生徒の割合

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の成果と課題

## 【課題】・課題解決に向けて、自ら考え、主体的に取り組む力の育成

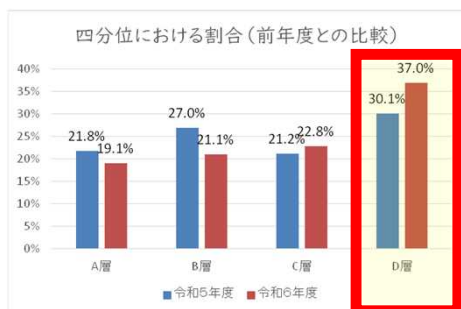


主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に関する取組状況について肯定的な回答をした児童・生徒の割合

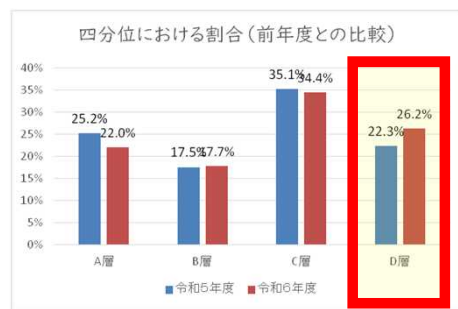
# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の成果と課題

【課題】・小・中学校共に、D層の割合が高く、A層、B層の割合が低い傾向

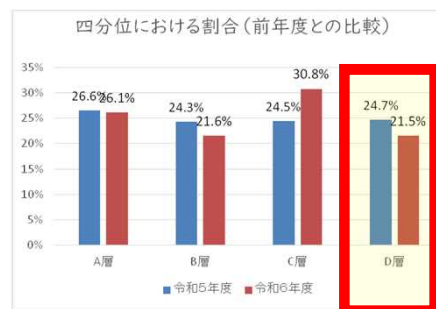
## 小学校 国語



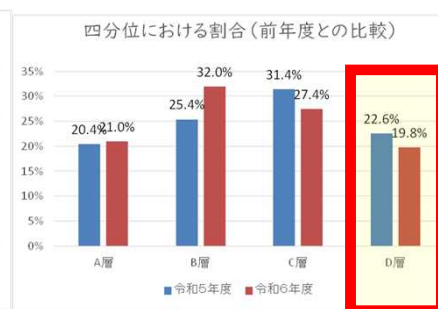
## 小学校 算数



## 中学校 国語



## 中学校 数学



学力層とは、本調査の集計対象（全国）となった児童・生徒全員の正答数分布の状況から四分位により分類し、正答数の高い順に、学力層A、学力層B、学力層C、学力層Dとしたもの

・基礎学力の確実な定着のための支援が必要

# 学習の伴走者としての教師の指導力の向上

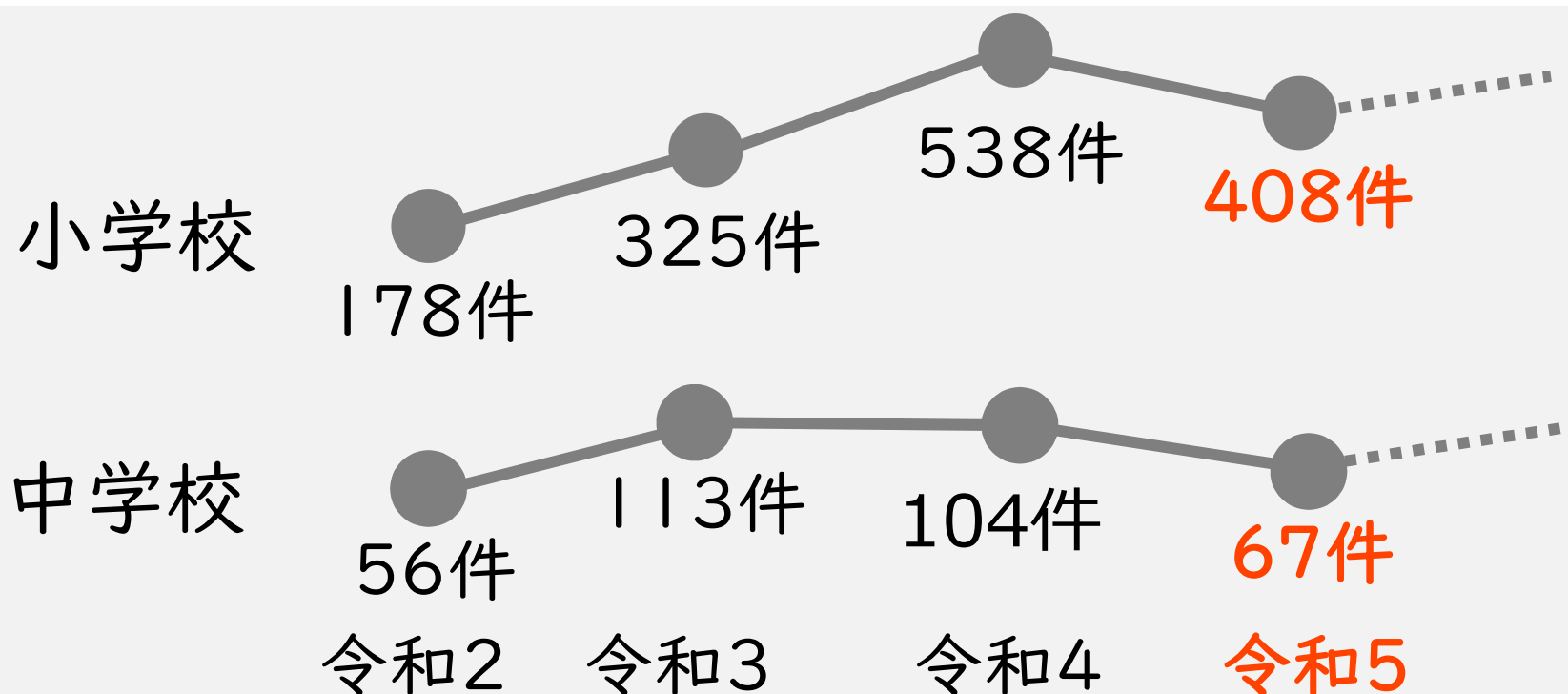


教える < ファシリテート



## 02 子どもが安全に安心して育つ環境づくり

本市におけるいじめの認知件数



# いじめの未然防止・早期発見・解決に向けた対策

## いじめの認知

いじめに該当する場合があります。

社会通念上のいじめ

## 行為の故意性・意図性

① **好意で**行った言動  
～親切のつもりが…

② **意図せず**に行った言動  
～悪気はなかったのに…

③ **衝動的に**行った言動  
～つい、カッとなって…

④ **故意で**行った言動  
～あの子がむかつく…

法令上いじめ

## 02 子どもが安全に安心して育つ環境づくり

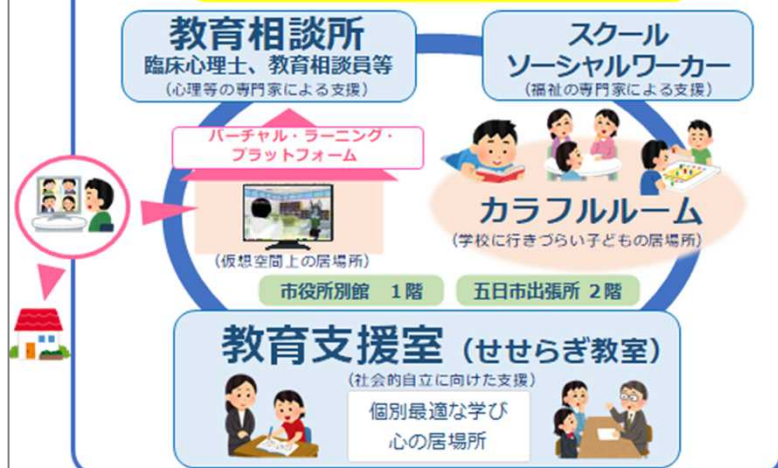
### 本市における不登校児童・生徒数



# 令和7年度 誰一人取り残さない学びを保障する不登校対策

あきる野市教育委員会

## 市教育支援センター



## 校内教育支援センター



## せせらぎ指導員による巡回支援

- ・校内カラフルルーム支援
- ・不登校対策委員会支援 など



## 不登校対応巡回教員

拠点校



- ・居場所づくりの推進
- ・個に応じた支援
- ・校内支援体制の整備

巡回中学校 (西、御堂、増戸、五日市)



- ①在籍校面談
- ②見学・体験
- ③配置校面談
- ④審査
- ⑤入室 (転学)

## 不登校対応 校内分教室 チャレンジクラス「るのR」 秋多中

Relearning  
(学び直す)

Resilience  
(整える)

Relationship  
(つながる)

- 生徒に配慮した個別の指導計画を作成
- 生徒の実態に即して時数を削減  
年間授業時数 665時間  
(例) 月・火・木・金 (4時間) 水 (3時間)
- 学校内の施設を活用した授業を実施



学習内容の  
定着

登校日数の  
増加

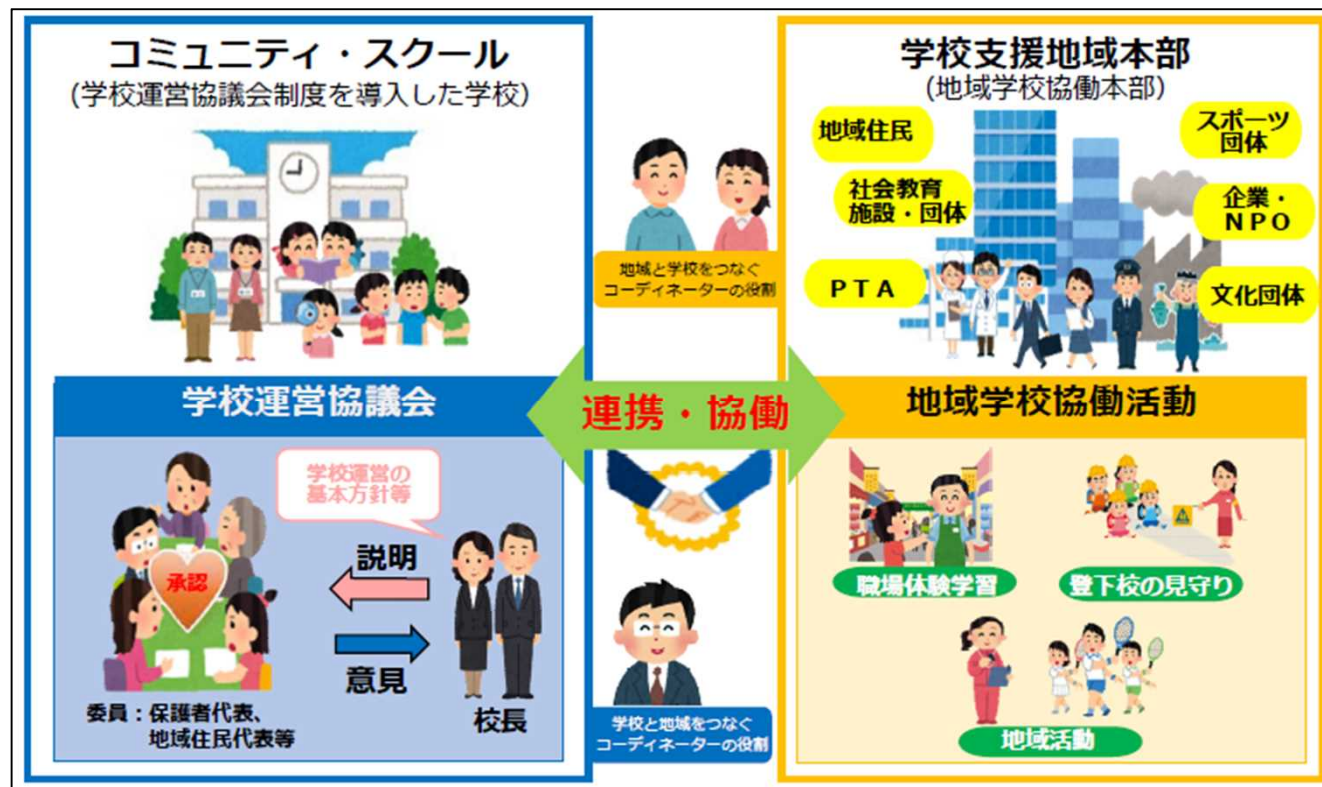
関係機関等と連携した  
相談・指導の充実

## 03 自然・伝統・文化を誇りに思う人づくり

令和6年1月、全小・中学校に  
学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールに！

# 03

## 自然・伝統・文化を誇りに思う人づくり



よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る

## 03

# 自然・伝統・文化を誇りに思う人づくり

## コミュニティ・スクールの魅力とは…

### 子どもにとって

- ・学びや体験活動が充実
- ・地域の担い手としての自覚
- ・事故、犯罪の未然防止

### 学校にとって

- ・地域の理解と協力を得た学校運営
- ・地域人材を活用した教育活動
- ・子供と向き合う時間の確保

### 保護者にとって

- ・学校や地域への理解が深まる
- ・地域の中で子供が育つ安心感
- ・地域等とのコミュニティの構築

### 地域の人々にとって

- ・経験を生かす場、生きがいづくり
- ・地域ネットワークの形成
- ・防犯、防災協力体制等の構築

### 03 自然・伝統・文化を誇りに思う人づくり

自然フィールドを生かした体験活動

歴史や伝統を受け継ぐ文化活動

地域人材と一緒に作る協働活動

# 自然フィールドを生かした体験活動

小宮地区自然体験学習



・環境政策課の  
森林レンジャー  
と連携

・市の多様な自  
然や文化を感じ  
る活動

# 自然フィールドを生かした体験活動

米づくり（稲作体験）

・保護者・地域  
住民等のボラン  
ティア



キッコーゴ醤油づくり

・豊かな自然を  
生かしてつくる  
醤油づくり見学



# 歴史や伝統を受け継ぐ文化活動

## 軍道紙（手すき体験）



・市の伝統的な手すき  
和紙づくりを体験

## お囃子・獅子舞・歌舞伎等



・地域の保存会等の  
指導を受けて活動

# 地域人材と一緒につくる協働活動

## 防災コンクール



- ・防災・安心地域委員会主催
- ・地震の初期対応、  
消火・救助活動等を披露

## 地域清掃



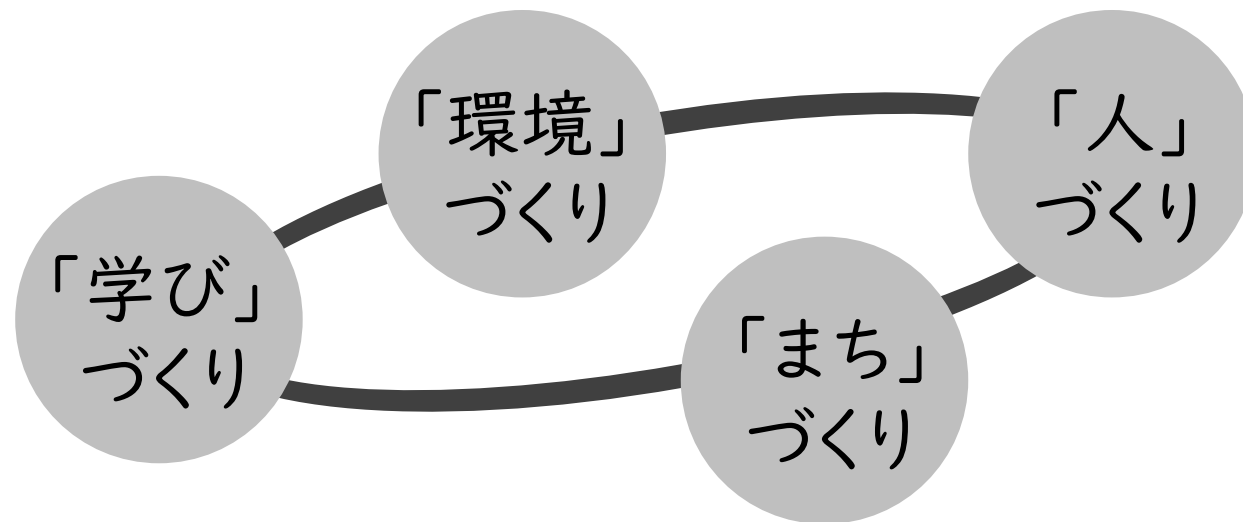
- ・地域の方々と、日頃の感謝を込めて、清掃活動を実施

## 04

# 地域で”ひと”を育てるまちづくり

～いいまちは いい学校をつくり

いい学校は いい人を育てる～



～いい学校で育った人は いいまちをつくり

いいまちには いい人が集まる～